

2023 年度:こども園自己評価の報告書

本町こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・研究テーマ「遊びや活動を通して人との関わりが豊かになる力を育む」～子ども一人一人が主体的に生き生きと遊べる環境作り～として取り組んできた。 ・発達特性のある子も多く、人的環境として、子どもたちをどう理解し、関わっていくかということと子どもたちが主体的に活動するための部屋の環境作りについて、研修で学び、職員の共通理解とし、めざすべき方向を確認しながら、進めてきた。
健康支援	・保健年間計画に基づき、身体計測や園医による健康診断などを通して園児一人一人の健康状態を把握し、各年齢のクラス担任と看護師が連携を取り、健康管理を行なった。 ・幼児クラスは看護師がテーマを決めて、毎月保健の話をし、継続することで子どもたちも興味を持ち、自分たちなりに考えている。また、保護者に対しても保健日よりなどを通して感染症、その他について発信している。
安全指導・危機管理	・施設の安全点検を毎月複数の職員で行い、危険箇所や危険が予測される箇所について修理、修繕を行い迅速に対応し、事故防止に努めた。 ・火災、水害、地震、不審者対応など様々な状況に対応できるように毎月避難訓練を実施し、二次避難を想定しての訓練も実施した。職員が消火器を扱えるように消防署から水消火器を借りて消火訓練を実施した。 ・9月1日のこども園防災の日には、非常食を防災献立として提供し非常食を食べることも経験している。
食育の推進	・クラスの現状から育てる野菜を決め、土づくりから子どもたちと一緒にやり、育てた野菜はクラスで調理をして食べる経験をする。 ・給食の食材の皮むき、技能員が各クラスに冬瓜などの給食材料の野菜を見る、節分の豆の話をすることなどでも、食への関心を高めている。 ・毎日の給食を掲示し、同時にフエルトで作った食材を置き、親子で見たり、触ったりしながら何が入っているのか、食べてみてどうだったかなど会話を楽しみ、保護者にも関心を持ってもらっている。
子育て支援（在園児および地域）	・クラス懇談会や個人懇談会などで保護者の悩みや困りごとなど聞いていく。送迎時などなるべく話しかけるように心がけ、話しやすい雰囲気を作るようにした。 ・コロナが明けて、子どもとどうかかわっていったらいいかという視点で保護者講演会もでき、一緒に遊んでもらう機会になった。 ・地域の親子も地域支援センターの利用やびよびよ・わんわんなどであそびながら子育て相談も受ける。予約をなくしたことで、ハードルが下がったようで、利用者が増えてきている。園主体の校区連絡会は3園を担当。それぞれの所属の方々と情報交換ができた。
インクルーシブ教育保育	・クラスの保育を考えると遊びにくい子が興味のあることをクラス全体の遊びとして取り入れていくことで、どの子どもが無理なく一緒に楽しめる機会が持てるよう配慮していく。運動会や生活発表会の取り組みで

	は、子どもたち自身で考えるよう投げかけていくことで、主体的に取り組む姿がみられた。 ・配慮の必要な子どもたちをどう理解し、支援していくか、職員間で何度も話し合い、確認するようにした。また、児童発達センター「つばみ」や教育センターなど関係機関とも連携していった。
職員の資質の向上	・保育アドバイザー研修では支援が必要な子をどう理解していくのか、子どもたちが主体的に活動するための環境設定の仕方について学んだ。講師の話聞くだけではなく、実際に保育の様子や部屋の様子も見てもらい、自分たちのやろうとしていることを伝えながら、具体的にアドバイスをもらえたので、理解しやすかった。 ・学んだことを受けて、どうしていくかということを少人数で話し合う機会を多く持てるように心がけ、悩み事を個人の悩みで終わらせずに、一緒に手だてを考えて実践し、振り返ることで職員が学び合う機会とした。
幼保こ小中の連携・接続	・大池小学校の幼保こ小交流会に 5 歳児が参加。小学校の様子を知ったり、1 年生と交流したりする機会となった。 ・配慮の必要な子が多く、進学先の学校と保護者の了解のもと連絡を取り合い、引継ぎをする。小学校から園での子どもたちの様子を見に来てもらう。
評議員会	・園周辺の各地域、関係者より 5 名を選出し、年間 3 回の評議員会を行った。園の教育保育について話をさせていただき、ご理解いただいている。2 回目はうさぎ組の公開保育、3 回目は 5 歳児と 1, 2 歳児の交流の様子も見ていただき、ご意見をいただいた。子ども同士の関わりや保育環境、保育教諭の関わりなど好意的に見ていただけた。
その他	・教育保育実習生、看護実習生、園見学等で子どもたちは様々な人と出会い、その中で人と豊かにかかわる経験をする機会になった。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
教育保育内容の発信	・保護者アンケートで「教育保育方針や子どもの様子をわかりやすく伝えている」「困ったことや気になることがあったときに相談できる環境づくりに努めている」という項目で評価がやや低い傾向が見られた。 ・今後、保護者への声掛けを丁寧にし、関係作りをしていく。また、保護者に保育の内容や意味を理解してもらえるようにクラスノートやおたより、写真を使うなど発信の仕方を工夫していく。
職員の資質向上	・園の子ども達の現状やその背景を丁寧に把握して子ども理解を深める。 ・保育アドバイザー研修や人権研修などで職員が、子どもの人権について共通理解し、そのことを土台として保育のねらいや配慮を定期的にミーティングや会議などで深めていく。

令和 6 年（2024 年）3 月 31 日

豊中市立本町こども園

園長名 長谷川 久美子